

福岡県の主な農産物の生産状況

平成31年4月15日現在
(専技情報より抜粋)

◇早期水稲（夢つくし、コシヒカリ）◇

田植は4月12日頃から始まり、4月下旬が最盛期で、5月上旬頃まで行われます。苗は、病害も見られず生育良好です。移植前3～5日に苗をハウス外に出し、苗を馴化しましょう。田植後、低温や風が強い場合には深水で苗を保護しましょう。

◇麦類◇

生育期間中が高温で経過したため、出穂期は平年に比べて8～10日早く、前年より11～13日早くなっています。穂数はやや多く、生育は概ね順調です。4月下旬までに赤かび病対策や穂揃期追肥作業が行われる予定です。

「ラー麦（ちくしW2号）」、「ミナミノカオリ」は、穂揃期追肥（穂揃期～穂揃期後7日）を必ず実施しましょう。赤かび病の対策は、小麦とはだか麦では開花期（出穂後7～10日）、大麦では葎殻抽出期（穂揃期後10日頃）に実施し、赤かび病に弱い品種や多発生が予想される場合には、7～10日後にもう一度実施しましょう。

◇イチゴ◇

現在の収穫は3番果房の終盤で、4番果房は平年並からやや遅い生育で4月下旬以降に出荷の見込み、出荷終了は5月中下旬の見込みです。親株の生育は、平年並みで順調です。

果実の品質低下防止のため、換気を徹底するとともに、収穫果実は早めに低温の場所へ移しましょう。また、親株の炭疽病、ハダニ類等の病害虫対策、肥培管理を徹底しましょう。

◇冬春トマト◇

促成栽培の中心作型である9月下旬定植は8～9段果房を収穫中です。現在、着果負担で草勢が低下しており、夜温も低く果実の着色がやや遅い傾向です。収穫後半に向けて草勢維持が図られており、出荷は4月以降も比較的順調な見込みです。ただし、コナジラミ類の発生が多い傾向にあり、灰色かび病の発生も見られます。

草勢維持のため肥培管理を徹底し、果実の品質低下防止のため換気を行い、収穫はなるべく涼しい時間に行うなど温度管理を徹底しましょう。また、かん水は急激な乾湿差による裂果を防ぐため少量多回数で行い、コナジラミ類等の病害虫対策を徹底しましょう。

◇キウイフルーツ◇

「ヘイワード」の展葉期は4月2半旬で、前年・平年より5～7日程度遅いです。30年度産の販売は肥大不良により数量減、単価高で推移しており、4月中旬に終了予

定です。

摘蕾、摘果、芽かきを徹底し、肥大促進、品質向上に努めましょう。また、かいよう病は、防除対策を徹底し、発生が疑われる場合は速やかに関係機関に連絡しましょう。

◇ブドウ◇

12月加温の「デラウェア」は着色期で5月1半旬から出荷見込み、12月～1月加温の「巨峰」、「ピオーネ」は果粒肥大～着色期で、発芽の揃いも良く生育は概ね順調です。2月加温の「巨峰」、「ピオーネ」が開花～結実期、トンネル、露地が発芽～展葉期で、生育進度は前年並みです。

着色期を迎えている作型は、ハウス内温度管理と枝管理を徹底し、着色等の果実品質向上に努めましょう。開花結実期を迎えている作型は、灰色かび病の発生に注意するとともに、花穂調整、ホルモン剤処理等の適期管理を徹底しましょう。

◇施設ギク◇

4月出荷作型の生育は順調ですが、アブラムシ類が一部ほ場で見られます。8月出荷作型の夏秋ギク「精の一世」「フローラル優香」の定植が4月下旬から始まります。

ハウス外からの害虫の飛び込みに注意し、アブラムシ類、アザミウマ類、ハダニ類等の害虫と白さび病の対策を徹底し、ウイルス病が発生した株は除去しましょう。

◇茶◇

「やぶきた」の萌芽期は4月11日の見込みで、平年より6日程度遅いです（八女分場）。八女地域平坦地の摘採は、4月15日頃から開始の予定です。新茶初入札は、4月16日（昨年と同日、平年より2日早い）です。

今後の生育は気象条件により大きく変動するので、芽の生育状況を十分に把握し、適期に摘採しましょう。

◇豚、鶏、肉用牛◇

豚枝肉価格は、輸入豚肉の通関遅れで供給量が少なく、前年をやや上回りました。

鶏卵価格は、供給量潤沢のため低調となりました。

和牛去勢枝肉価格は、前年、過去5年平均とほぼ同様の水準です。交雑種見合いの省令価格は、量販店で和牛から交雑牛への切り替えが進み、前年・過去5年平均を上回る水準です。

岐阜県及び愛知県での豚コレラの発生が続いています。毎日の家畜の健康観察の徹底、異常の早期発見・早期通報、農場の衛生管理を徹底しましょう。また、季節の変わり目に当たり肺炎等の発生に留意しましょう。